不足にて手に手負を出し家を分かつて攻め城
の中丸の城際まで攻寄せて矢倉を拔き櫓を持
持て城の矢狭間へ鉄炮を射込まるるに一発もなければ
故に城にては攻破るべき思い外角付の如く中丸近き
うへ城に新しく地高きを見て敵陣を拵へ
て城際の陣に立寄れば矢倉の上にて石を投げ立
除けば城内にあるべき様を能く足すまし陣地の上物見
指向けて礮の先を覗ひたるに寄手の者共敵陣を拵
へ礮の薬へ立寄りて打先くらくたるに城中にて
あまたび礮の穴を射通し敵の屏風を立て対敵
して後は矢一つ切り切りて攻寄せども敵一人
一人打ちたちの攻に囲みたるとて遂かつくも

白岩軍評定并原合戦之図之事

四郎の勝家軍に攻寄せし時長門守柳肥後守宇佐美
上野介松平四郎兵衛寺角右衛門尉下のべ寺十人ばかり
城を立ちて美濃寺へ入て事社仲間と相和し八郎兵の
家を追掃 長柄を奪ひ集めいまだ山本五郎左衛門